

#### (4) 新規観測井の設置と地下水連続観測結果

庄川扇状地の地下水動態を詳細に検討するため、図 3-6 に示した 12 箇所の既設井戸に自記水位計を設置して連続観測を実施中である。設置箇所の井戸諸元を表 3-3 に、現在までの地下水位観測記録を図 3-7 に示す。

表 3-3 自記水位計設置井戸諸元

観測井 No.	井戸番号	住所	井戸形状	地盤標高 (El.m)	井戸口径 (m)	井戸深度 (m)	観測水位 (GL-m)
1	W-21	城端町信末	手掘り (開放井)	95.0	0.750	4.54	1.84
2	W-23	井波町坪野	ボーリング井	89.9	0.200	80.00	38.84
3	W-35	福野町やかた	ボーリング井	56.3	0.200	75.00	12.38
4	W-40	小矢部市水島	ボーリング井	44.0	0.200	40.00	7.43
5	W-46	小矢部市浅地	ボーリング井	37.0	0.075	15.00	4.76
6	W-56	小矢部市金屋本江	ボーリング井	30.0	0.075	30.00	3.23
7	W-60	砺波市寿町	ボーリング井	47.0	0.150	70.00	18.84
8	W-76	砺波市高波	ボーリング井	27.0	0.100	30.00	3.80
9	W-61	高岡市戸出	ボーリング井	30.0	0.100	60.00	9.53
10	W-136	高岡市戸出市野瀬	ボーリング井	20.0	0.150	40.00	1.79
11	W-135	大門町串田	ボーリング井	14.0	0.150	30.00	2.20
12	W-77	福岡町土屋	ボーリング井	17.0	0.100	60.00	2.92

注) 井戸番号は一斉測水の井戸番号を示す。

観測期間が3ヶ月間程度と短い、冬期間の観測データから読みとれる地下水位変動傾向を以下に示す。

観測データを見ると、小刻みな水位低下 (No.2、No.7、No.12 等) と回復を繰り返しながら変動するものと緩やかな変動を示す (No.8、No.9) のものがあるが、前者は消雪用地下水の汲み上げによる人為的な影響と考えられる。

12月に観測を開始したNo.1、No.5、No.6、No.8、No.9、No.12等の観測結果から観測期間全般の地下水位変動傾向を見ると、12月中はほぼ一定した水位であったが、1月初旬から中旬にかけて上昇傾向を示し2月中旬まで概ね安定した水位レベルを維持したが、その後は単調な低下傾向を示している。

1月初旬から中旬の地下水位上昇は、積雪量の減少傾向とも一致していることから融雪水の地下浸透によるものと思われる。1月上旬の平均気温は1.91であったのに対して中旬の平均気温は4.3とかなり高くなっており、積雪量もゼロとなっている。

消雪用地下水取水の影響と判断される水位低下は、総じて1.5~2mである。

No.10、No.11地点では、観測期間を通じて大きな水位変化が見られず、概ね安定した水井を維持する (あるいは僅かな低下) 傾向を示している。



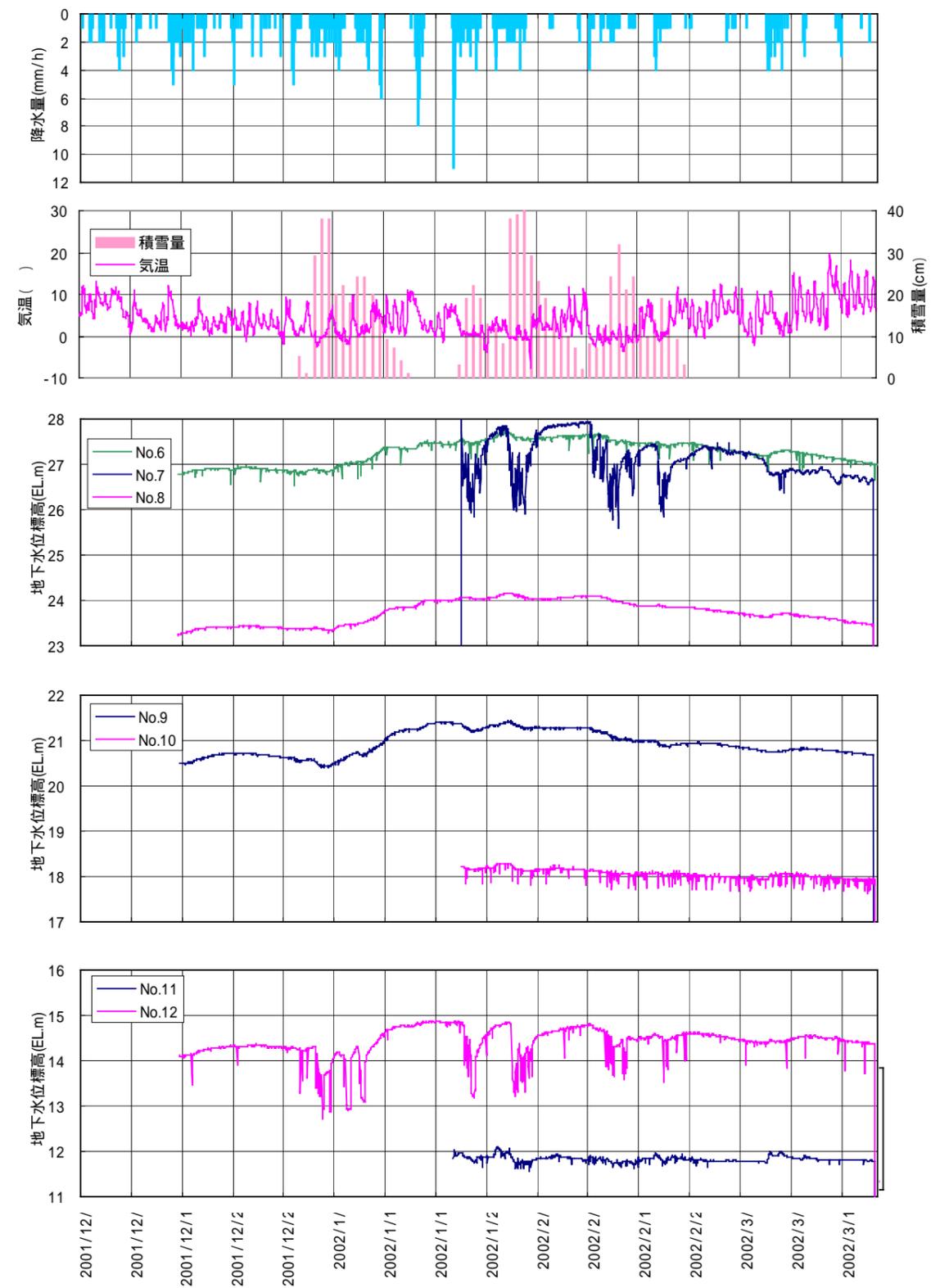
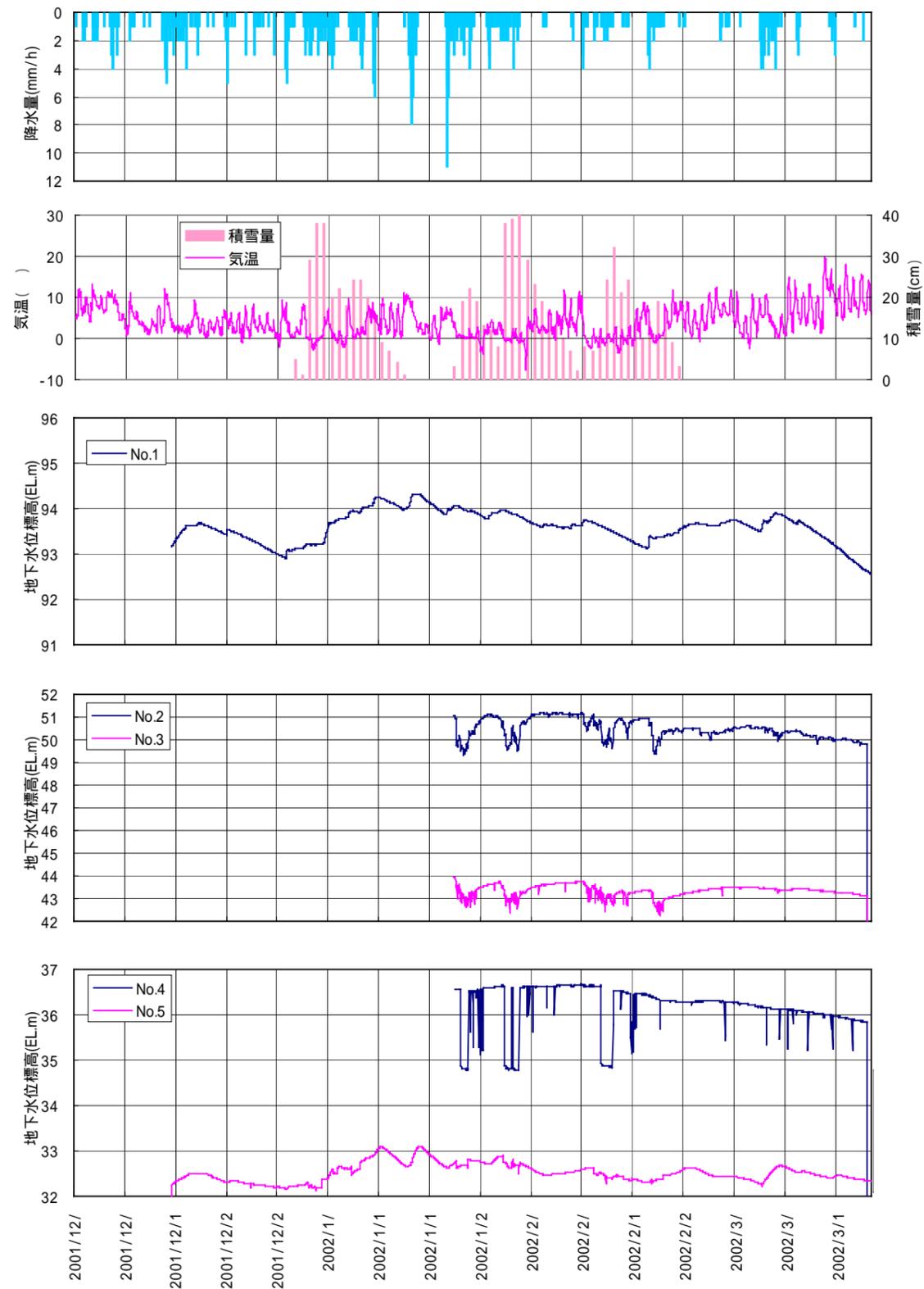


図 3-7 地下水位変動図